



第17号 平成25年12月20日発行

同和地区社会福祉協議会

社協だより



ひとり暮らし高齢者の集い 10月10日(木)八幡町集会所



今年は昨年より3名ほど少ない21名の方に参加していただきました。寂しいことですが、亡くなられた方や体調不良の方が少しずつ増えているようです。今年もリズムメイトの皆さんによる楽しい演奏で、懐かしい思い出の歌を元気に歌っていただきました。みなと在宅介護支援センターの松岡さんによる健康体操のあと、歓談をしながらの楽しい昼食で終了しました。

【参加者の声】

- 家の中に引っ込んでいた人が多いので、こういう会を開いてもらえることは大変良いことだと思います。楽しいのであつという間に時間が過ぎてしまいます。(I.Kさん)
- みんなの要望に答えてくださり、たくさん歌を歌いました。お食事を据え膳でいただいて、お土産までいただいて恐縮するほどもったいないです。これからも参加したいと思います。(T.Nさん)

中央・同和地区大運動会 10月27日(日)中央小学校運動場

好天気の中、恒例の中央・同和地区大運動会が開催されました。今年は雨のため当初の予定より1週間順延となりましたが、地域の皆様に多数ご参加いただき怪我や事故もなく無事終わることができました。町別対抗競技ではみんなが一つになって盛り上がり、子どもから大人まで素晴らしい笑顔を見ることができました。参加賞を手にとれしようにテントに戻ってくる子ども達の様子からも、地域の方々と一緒に楽しい時間を共有できる大切な行事なのだと改めて感じました。これからもたくさんの方に参加していただき、地域の方々との交流を深めていただきたいと思います。

<子どもたちにききました>

楽しかった競技は？

- 大玉転がし
- 玉入れ
- パン食い競争
- リレー
- キック&キック
- 全部



気に入った参加賞

- バッグ(水玉模様の不織布)
- とんがりコーン
- プッカ
- 全部



得点結果(10チーム中): 中町 25点 7位 八幡町 17点 10位

<その他アンケート>

- たくさん景品をもらってうれしかった
- いろいろな競技に出てすごく楽しかった
- リレーではぬかされてしまくてくやしかった
- 車輪を回して走るのがむずかしかった
- 玉入れで入れるコツがわかったので来年はもっとたくさん入れられるよう頑張りたい
- 大なわとびは思ったよりたくさんとべてよかった
- 今年は子どもに親子競技を拒否されさみしかった
- 競技に出て、他の地区の知らない方と話ができて、とてもよかった

特集 地域の防災

気象情報会社「ウェザーニューズ」が調査した結果、東日本大震災の生存者と犠牲者の行動について、地震発生後の避難開始時間が生存者は19分、犠牲者は21分だったそうです。この2分が生死を分けたということになります。日頃から防災の意識を高め、いざという時にスムーズに行動できるように心がけたいものです。

◆◆◆ 津波災害を想定した防災訓練の実施について ◆◆◆

2011.3.11の東日本大震災より早、2年9ヶ月が経過しました。私も伊勢湾台風及び淡路大震災以来の大災害で、特に津波による災害は初めてであります。さて今回の防災訓練に際し、社協の皆様を始めとする広報部の方より津波マップの提供を頂き御礼を申し上げます。従来の防災訓練は地震災害を主体に実施し、津波に関する訓練は「無」と言っても過言ではないと思います。“ぐら”と来れば食卓・机の下に身を寄せれば、たいてい命は助かりました。しかし東日本大震災は、今までほとんど経験したことの無い津波による災害です。津波が来たら“何処へ避難するか”はほとんど“無の状態”で経験がありません。今、どの地区の防災組織も、津波に対する減災対策及び避難所運営体制の充実に全力投球をされております。同和地区においても災害時、何処へ避難するか、どの高所(高台)へ避難するか戸惑いを持たれると思います。今回は前年度の意見を踏まえ、中部西小学校で実施いたしました。これで、2箇所の避難所を経験された事となります。ただ残念なことは、同和地区内においては3階以上のビルが“無”に近いことです。今後の防災訓練において更に、①避難場所の確保、②避難運営体制の充実が急務と考え同和地区防災隊も頑張りますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

今回は、防災及び減災に関する意識の向上で149名の参加を確認した事をご報告申し上げます。

同和地区防災隊長 北川日出夫

◎同和地区防災訓練 11月4日(月)中部西小学校体育館



朝9時に鳴るサイレンを合図に各々が中部西小学校へ集合。各町ごとに着席し、防災講座や東日本大震災の映像を見た後校舎内の津波避難場所を確認しました。



◎水害に対する危機管理

9月16日台風18号が豊橋に上陸し、大雨特別警報が8月30日の運用開始後はじめて、京都・福井・滋賀に発令されました。幸い四日市市では大きな被害はありませんでしたが、どのような場合に避難が必要で、どのようにして私たちに告知されるのでしょうか。また、10月16日台風26号は伊豆大島に大きな被害をもたらしました。しかしこの被害は自然災害であるとともに、人的災害の側面を持ち合わせていると思われます。四日市市の危機管理は安心なのでしょうか。

台風27号の接近が予想される10月23日。災害対策本部を準備中の、四日市市役所危機管理室副参事の松井さんを訪ね、お話を伺いました。同和地区が大雨で心配されるのは、三滝川の氾濫です。三滝川には水位を観測するテレメーターというものが3箇所(高角・野田・西町)の橋の下に取り付けられています。水位が上昇すると自動的に市役所へ送信されることになっており、避難情報の参考になるシステムです。それにより、あらかじめ危険が予想される地域が青色で仕切られた地図があり、水位によってどの避難所を開放していくか検討されます。三滝川は以前は危険な川とされていましたが、今は十分な補修がなされ、この辺りの2級河川の中では一番安全な川になっているそうです。避難勧告・避難指示が出された場合は、サイレンで住民に知らされます。市内では105箇所鳴らす場所があり、同和地区に最も近いのは中消防署のサイレンだそうです。1分間鳴り続け、5秒停止を繰り返します。その他広報車が出動し、CTYやFM四日市がエアメールで情報を流します。四日市市のホームページでも知らせるそうです。また、現在準備を進めているものに、緊急告知ラジオがあります。今年度中に 15,000 個、内訳は要援護者台帳に基づく対象者とその支援者、及び自治会役員、民生委員などに無料貸与される予定だそうです。自動的に電源が入り情報を受け取ることができるので、情報弱者にとってはかなり重要な役割を持つものになります。最後に松井さんの「台風接近が予想されるのに職員が帰宅することはあり得ない。」という言葉に安心しました。ただし人任せにするのではなく、教訓として伝えられている「命を守るためには忘れないこと」を1人1人がいつも心に留めておきましょう。

三世代交流グラウンドゴルフ 11月17日(日)中央小学校運動

朝は冷え込みましたが大変良いお天気に恵まれ、三世代交流グラウンドゴルフが開催されました。約 80 名の方が参加してくださいましたが、同和地区の参加者が少なかったのが残念でした。



【編集後記】

「今でしょ！」に始まり「おもてなし」でしめくくる平成25年。来る平成26年、「じぇいじぇ」と驚く「倍返し」の幸運が皆様に訪れますように。来年も社協行事へのご協力よろしくおねがいします。流行りモノ好きの担当 S.I